

車体 NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.



2011 新春増刊号

年 頭 挨 拶

社団法人日本自動車車体工業会

会 長 高 木 茂



あけましておめでとうございます。

2011年の新春にあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

車体業界の昨年を振り返ってみますと、たいへん変化の激しい1年間でありました。前半は購入補助金効果や排気ガス対策特需もあり回復傾向に向かいましたが、秋以降はその反動で大きく落ち込みが続いています。

国内の貨物車登録台数は1月～11月累計で貨物車は26.8万台（前年比114.2%、2年前比71.9%）、うち中大型貨物車は4.5万台（前年比121.5%、2年前比65.3%）と、若干回復はしましたが2年前比では大きな落ち込みとなっています。

同様に1月～11月までの会員総生産台数は214万台（前年比121%、2年前比78.8%）、そのうち委託量産車を除く当会特有車種は10.2万台（前年比119%、2年前比68.9%）と本格的な回復には至っておらず、特に最近の数カ月は急激に減少しています。また、本年の中大型車需要も5万台未満という低水準の見込みとなっており、会員会社の経営はたいへん厳しい実態であると認識しております。

このような中、当会は「会員支援活動の充実」「環境対応活動の推進」「安全対応活動の推進」を重点項目として取組み、皆様のご協力でいろいろと成果を上げることができました。

「会員支援活動の充実」は、特に技術面での支援で成果が出ております。一昨年からスタートしました「改造自動車取扱い解説書」の全面改定は、計画どおり3月には発行できる見込みで、皆様の日常業務に大いに役立つものと期待しています。また会員への情報展開の面では、新たに始めたリコール事例の再発防止策の展開や、省エネ手法など環境対応事例の情報展開が充実できたと考えています。

二点目の「安全対応活動の推進」では、7月にバス車体規格集の改訂版を発行することができ、JABIA規格の今年度新設4件、改訂1件も順調に進んでおります。更に今年度の調査研究活動はトレーラのROC（横転抑制装置）評価方法の策定やリアバンパーの共同開発など8項目に取組んでいます。一部に遅れはあるものの総じては順調に進んでいると判断しています。

三点目の「環境対応活動の推進」では、皆さまのご協力によりましてCO₂、VOC、産業廃棄物の削減とも、ほぼ目標達成出来る見込みとなりました。また数年前から検討を進めてきました「環境基準適合ラベルの内容充実」、これは通称「ゴールドラベル」と呼んでいますが、この内容もほぼまとまり4月からスタートできる見込みとなりました。

なお、当会の正会員数は、ここ2年間で新入会11社、退会4社と7社増加し167社になりました。退会理由は厳しい経済環境の中で解散や廃業というやむをえない理由ですが、新入会の主な理由は「厳しい経済環境の中だからこそ、車体工業会を通じていろいろな情報を入手し経営に生かしたい」とのことであり、その期待に応える責任を強く感じております。

さて、本年の経済の先行きについては、残念ながらまだまだ不透明な状況であり、国内商用車の需要も引き続き低水準で推移すると見込まれています。

このような中、当会は公益法人制度改革により次年度から一般社団法人に移行予定であり、従来にも増して「会員に喜ばれる、頼りにされる会員支援活動」を充実させていく所存ですので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員並びに関係各位のますますのご繁栄とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。